vinetur

ボローニャで第15回Mercato dei Vini、1,000超の生産者が8,000種類のワインを出品

11月18日の試飲会を皮切りに、イタリアの独立系ワイン生産者による直販を軸とした3日間の見本市が開幕する

2026年11月13日（金）



BolognaFiereとイタリア独立系ワイン生産者連盟（FIVI）は、11月18日にボローニャで開催する試飲会で、第15回Mercato dei Vini dei Vignaioli Indipendentiを紹介する。同見本市は11月21日から23日までの3日間にわたって開かれる。

発表試飲会は午前11時30分、Cinema Modernissimo内のPiazza Re Enzoにある、Forno Brisa併設のCaffè Pathéで開催される。主催者によると、独立系ワイン生産者に特化した年次マーケットを先取りする催しで、FIVI加盟生産者のワインを、地元の軽食とともに楽しめる。

11月18日の催しには、ボローニャ市の教育・農業・食品産業担当市議会議員Daniele Ara、ワイン生産者でFIVI会長のRita Babini、BolognaFiereの展示会マネージャーAlice Giuliani、Confcommercio Ascom Bolognaの事務局長Giancarlo Tonelliが出席する予定だ。

FIVIとBolognaFiereが主催する本イベントは、第15回を迎え、ボローニャの展示会場に戻ってくる。主催者によると、来場者は試飲・購入できる8,000種類のワインから選ぶことができる。イタリア全土の1,000を超えるワイン生産者に加え、FIOIに所属する独立系オリーブ生産者や、欧州独立系ワイン生産者連盟（CEVI）に加盟する各国団体のワイン生産者も参加する見通しだ。

このマーケットは、生産者と消費者が直接交流できるイタリア有数の一般向けイベントへと成長した。自らブドウ畑を耕作し、販売するワインを瓶詰めする独立系生産者を中心に据えた形式が特徴だ。この取り組みにより、流通業者や輸入業者、輸出取引に重点を置く大規模な見本市が多いイタリアの競争の激しいワイン展示会カレンダーの中で、明確な個性を築いてきた。

主催者によると、11月のプログラムには、土着品種とイタリアを代表するワイン産地をテーマにしたマスタークラス4講座も含まれる。また、関連企画のNotte bianca della ristorazioneは、見本市の開催期間中、ボローニャ市内と周辺県のレストランや会場でFipe-Confcommercio Ascom Bolognaが展開する。

11月18日の発表会では、2026年のVignaiolo come noi賞とLeonildo Pieropan賞の選定理由についても説明するという。今回の発表は、独立系生産者の仕事や個性、社会的役割に光を当てるという見本市の幅広い取り組みの一環として、両賞が引き続き設けられることを示している。

イタリアのワイン生産者が生産コストの上昇、消費者の嗜好の変化、先行きが不透明な海外需要に直面する一方、地域固有のブドウ品種や生産手法の維持にも取り組む中で、今回のイベントは開催される。こうした状況下で、直販と生産者の認知向上を軸とする見本市は、小規模・中規模ワイナリーにとって重要な販売・販促手段となっている。

BolognaFiereにとって、このマーケットは晩秋のボローニャを彩る充実した食とワインのイベント日程に加わり、専門家と一般消費者の双方を歴史地区や展示会場に呼び込む。FIVIにとっては、イタリアの農業・商業政策において独立系ワイン生産者の認知を高めるよう働きかけてきた全国的な生産者ネットワークを紹介する、重要な年次イベントであり続けている。

主催者によると、報道関係者の取材登録とマスタークラスの申し込みは、イベントの公式窓口で受け付けている。